

今日のみことば

□ 6月10日(日) 列王記下 20章

旧約時代の人々にとって、死後の世界は漠然としていた。死ぬこと予期してヒゼキヤは苦悩していた。神は彼の祈りを聞かれた、彼の高ぶりが、悲しい出来事をもたらすこととなった。

□ 6月11日(月) 列王記下 21章

マナセはダビデ以来のどの王よりも神に仕えた善き王を父の持ったが、彼はそのすべてのよい業を、残らず帳消しにしてしまった。

□ 6月12日(火) 列王記下 22章

ヨシヤは、ユダの王たちの中で最善の王であり、徹底的に宗教改革を行った。修復中の神殿から律法の書を発見、律法の書が朗読され、主から遠い自分たちを発見した。

□ 6月13日(水) 列王記下 23章

律法の書が朗読された時、人々は主との契約を更新する。神のきよめはユダだけでなく、イスラエルのも及んだ。しかし神のさばきは延期されはしたが、破棄されることはなかった。

□ 6月14日(木) 列王記下 24章

ヨシヤの後の王エホヤキンは、バビロンの王ネブカドネザルによって属領とされ、エルサレムは完全に滅ぼし尽くされる。ダビデの地上の王国はこれで終わった。

□ 6月15日(金) 列王記下 25章

紀元前586年ネブカドネザル王によってエルサレムは占領され、ソロモンの神殿は破壊され、民はバビロンに捕囚されたユダに王が君臨しての400年間は終わった。

□ 6月16日(土) 歴代誌上 1章

歴代誌は、神が定められた二つの定め—神の宮とダビデ王朝—について強調力説する意図を目的として書かれた。ここにはイスラエル民族を中心として系図が記されている。

ろ ぼ No. 1871
2018年 6月10日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エペソ 5:21
キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。

私たちは、家族伝道を祈りとしています。パウロの「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」との言葉を私はしっかり聞かせていただくことが、この課題を受け止める上で大切だと聞かせていただいています。

パウロは「妻たちよ」(5:22)と言って、どんなこと語りましたか「夫たちよ」(5:25)と言って、パウロは夫婦関係の大事なことをどのように語ってくれますか。ときどき私たちは聖書の時代に引き戻されて、大いに反発をさせられること大です。でも私は、これこそが私たちがしっかり心得させていただかなければならない、今の時代の必要だと思っていることです。カンヌ国際映画祭で最高賞をいただいた「万引き家族」という映画が、いま大評判です。それはそこで描かれた家族関係が、家族の絆が、話題になっているようですが、まだ見ていないので何も言うことが出来ません。が、私は今日の様々なニュースで聞かされる、家族破壊の状況と結び付けられながら、この映画を通して提供された課題を、私たちがどのように生きているかということこそが、問われていることだと思わさせられています。パウロは「キリストに仕えるように」と言います。それは夫に対して妻に対しても同様です。私たちはキリスト・イエスとどのように向きあっているのでしょうか。

私は、イエスが十字架上で語られた一つの言葉を心に留めさ

せていただいています。「イエスは母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、『婦人よ、御覧なさい。あなたの子です』と言われた。それから弟子に言われた。『見なさい。あなたの母です。』そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。」(ヨハ19:26-27)との記事です。

そこに私が何を聞いたか？ 十字架の真下で涙しておられるマリヤを、イエスはご覧になっています。マリヤはこの出来事をしっかりと受け止めています。これまで理解しえないイエスの出来事を、しっかり心に留めてきたマリヤです。十字架にかかれたイエスをも、大きな心の悲しみの中にあっても、しっかりと受け止めておいででした。

イエスはこのために十字架におかかりになったのではと、聞かせていただいています。すべての人は、その罪のために死ななければなりません。どのような悲しみがそこにあるのでしょうか。そのすべての悲しみをぬぐわれるためにイエスは十字架にかかれたのです。そのイエスの愛を、しっかりと受け止めて生きることに、私たちの生きる道はないのです。イエスはこのようにしっかりと私たちを抱いていて下さるんです。

パウロが私たちの家族の問題について、何を聞いても私たちが見つめさせていただけねばならないのは、イエス・キリストということです。私たちは、家族の中のどのような出来事も、しっかりとそれを受け止めることができなければならない「キリストにあって」との一字です。そして受け止めることができる心を、主は私たちに下さいました。だから「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合う」とき、私たちは感謝と喜びにあふれさせていただけると信じています。

《 聖書の学び・祈祷会 》

コリント二 9:1-15 献げることであふれる感謝

私はこのコリントの信徒への手紙の学びを通して、本当に大切なものをしっかりと教えていただきました。コリント教会がキリストにあっていつも一つであってほしいとの願いです

そしてしっかり助け合う人たちであってほしいと言うことです。小アジア地方の教会はほとんど小さな教会でした。でもキリストにあって救われた喜びはだれにも負けないほど豊かでした。聖地エルサレムにある教会のことを覚えるとき、自分たちの貧しさはさておいてでも支えたいとのマケドニア地方の教会の人たちの愛に聞くのです。

私たちは、パウロのささげ物に対する姿勢をしっかりと聞きとる必要があるか、と思っています。そしてそれは決定的です。キリストの十字架の前に立たされます。「施し」との言葉が何度か出てきますが、原書にはありません。ささげ物本質を聞かねばならないのでしょうか。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	創世記5:21-24 神の助けを受けて
----------	---------------------